

## 和田創 ブログ

2007年12月21日(金)

SBI大学院大学、開校間近！

私は先週水曜日、[横浜メディア・ビジネスセンター](#) 6階に置かれた「[SBI大学院大学](#)」を訪ねた。

目的は、施設の視察と授業の打ち合わせである。

高い建物の少ない横浜・関内でひととき目立つビルだ。

なかに[神奈川新聞社](#)や[テレビ神奈川](#)などが入っている。

さて、ドアを押すとすでに内装工事が終わり、什器や家具などが整っていた。

入口がロビー、横が図書室、その横が講師室。

突き当たりが事務局、横がアシスタントデスク、その横が医務室。

そして、奥が教室。

コンパクトながら、学生数に見合った十分なスペースが確保されている。

私は[和田創研](#)ごと、ここに引っ越してきたくなった。それくらい知的かつ快適な環境である。

世の中に新しい学校がデビューすることを実感させられる。

ちなみに、11月下旬、文部科学省の認可がおりた。

現在は来年4月の開校へ向け、カリキュラムの中身の作成などが着々と進められていた。

ここは、[SBIホールディングス](#)の寄付により設立され、同時期に認可を受けた[学校法人SBI大学](#)により運営されるとか。

以下に、SBI大学院大学について紹介しよう。



「新産業クリエイター」を標榜するSBIグループは、産業育成と並び、「人材育成」に取り組む。

同グループを率いる北尾吉孝が、理事長と学長を兼ねる。

資源に乏しく、まして人口が減る日本では、人材こそが最大の資源である。

その育成を図らずして、国際競争力の維持・向上は叶わない。

同校は、北尾吉孝の社会貢献への考え方から、倫理的価値観と科学的経営理論を具備した「人物の育成」を基本方針とする。

「徳育」と「実学」の2本柱—。

まず、知識を詰め込む「知育」でなく、人間力を磨き抜く「徳育」を重んじる。

経営リーダーに欠かせない人間学を、中国古典や日本近代思想などに則して教育する。

そして、最先端の経営学の知見も取り入れた「実学」を重んじ

る。

経営プロフェッショナルに欠かせない、単なる理論でない実践力を体系的に養成する。

同校が育成を目指す「有為の人材」とは、次のとおり—。

1. 倫理的価値観と実行力をともなった「胆識」を備える。
2. 一企業の利益に留まらず、広く経済・社会に貢献しようとする「志」を有する。
3. ビジネスにおける高度な「専門性」を備える。
4. 国際的な「視野」を持つ。

同校は、早期育成という観点から、社会人経験者を対象とし、幅広く入学志願者を募集する。

働きながら受講できるよう、授業はインターネットを利用した「eラーニング」が前提になる。

ただし、一部科目に限って教員と対面する、通学制の授業とする。

授業の大半は、時間と場所の制約を受けない。

当然、学生同士、学生と教員の交流は図られる。

同校の概要は次のとおり—。

1. 名称：SBI大学院大学
2. 学長：北尾吉孝
3. 学科名：経営管理研究科／アントレプレナー専攻
4. 形態：専門職大学院（通信教育）
5. 学位・称号：経営管理修士（専門職）
6. 運営法人：学校法人SBI大学
7. 入学定員：正科生80名（春40名・秋40名の2回募集）
8. 修業年限：2年
9. 修了要件：40単位以上

「理想の学び舎」を実現し、未来を担う人材を輩出する。



以上。

同校から巣立った学生は、かならずや日本と世界の経済・社会に活力をもたらすことだろう。

私が協力を決意したのは、徳育と実学により「人物を育てる」という北尾吉孝の考え方に深く共感したから…。

この思想に基づき、同校は授業に「営業」をしっかりと組み込んだ。倍の2単位。

MBAとしては異例なのでは…。

私は年明けから授業内容をオリジナルで創りあげる。

せっかくの機会なので、私が長らく行ってきた「提案営業研修8日間コース」を再編集するやり方はしたくない。

これまで、**カリキュラムの実践性**と**具体性**は高い評価を得てきたが、より**科学性**を強める。

むろん、カリキュラムの**根幹**は変わらない。

なぜなら、私の営業に関する**信念**が土台になっているからである。

要は、いままでどおり**コンサルティングセールス**の思想と、**ソリューションセールス**の技術を指導するつもり。

私は、**起業家（アントレプレナー）**にどうしても**営業力**を身につけてほしい。

会社の**創設期**には、率先して「**トップセールス**」を展開しなくてはなるまい。

会社の**成長期**には、増える社員に対して営業を**指導**しなくてはならない。

概して、**ベンチャー**は営業が**ひ弱**であり、市場の関心や顧客の注目が薄れると、あっけなく**挫折**することが多い。

ベンチャーは**継続**できなければ、起業の志を遂げられず、社会への貢献も果たせない。

…ところで、**明治大学**に5年間も在籍して卒業できなかった私が、まさか**MBA（社会人大学院）**で授業を受け持つようになるとは、**夢**にも思わなかった。

まして、SBI大学院大学の教員は、同校の設立趣旨と教育方針に沿って選抜されており、その**顔ぶれ**は**第一人者**が揃っている。

大学の**教授**やその経験者を極力外したのだろう。

私の**実務家**としての**愚直な努力**と**実績**が認められたわけで、感慨深いものがある。

今回のきっかけは、「読売経営セミナー」を受講してくださった女性の**紹介**によりもたらされた。

これまでの**職業人生**を振り返り、私は節目で**東大**と**リクルート**の出身者から貴重な「**縁**」をいただいている。

心より**感謝**したい。